

# 卒業生へのノートパソコン必携化に関するアンケート調査結果報告

森 祥寛, 松本 豊司, 佐藤 正英, 青木 健一

金沢大学 総合メディア基盤センター

mori@el.kanazawa-u.ac.jp

概要：金沢大学では、新入学生にノートパソコンを所持させるようになって7年が経つ。その2年後、学部学科から学域学類への組織改編があったこともあり、ノートパソコンを所持させた学生に対して、卒業時に調査することができていなかった。昨年、学域学類に所属する学生がはじめて卒業を迎えた。これを機に、卒業生に対して所有させたノートパソコンに関するアンケートを実施した。その結果、学生が在学期間中にどの程度、ノートパソコンを使用してきたか等が分かってきた。本稿では、これについて報告する。

## 1 はじめに

金沢大学では、人文社会・理工・医薬保健系を問わず「高度情報化社会に対応できる情報処理の基礎能力・総合力を持った人材育成」を目的として、情報教育に取り組んでいる。その一環として、2006年度から新入学生全員に入学時にノートパソコンの準備をさせるとともに、学内での情報活用環境の整備（大学キャンパス内の無線LAN整備、大教室への情報コンセントの設置、ポータルサイトの導入と生涯IDの配布）を進めてきた<sup>[1]</sup>。さらに、ノートパソコンやキャンパスのICT環境を、より積極的に活用できるようにするために、全大学1年生を対象とした必修授業「情報処理基礎」を開講した。この授業は、ICTに関する基礎的な内容を、実習を主として学ばせ、金沢大学学生として最低限のICT活用能力を身につけさせることを目的としている。

一方で、2011年度末に、金沢大学3学域化による組織改編後初めての卒業生を輩出した。これを機会として卒業生に対して、必携化させたノートパソコンの利用等についてアンケート調査を行った。このアンケートによって学生にPCを持たせた結果、学生時代にそれをどのように活かしてきたかについて確認をした。本稿ではその結果を中心に、新入学生へ行っているアンケート調査と合わせて報告する。

なお、今回の卒業生に対する調査では、「ノートパソコンをどれだけ利用しているか」や「ICTを学習や研究活動にどれだけ使っているか」というようなことを聞いているため、ノートパソコンやインターネットをほとんどと使用していない学生の意見も吸い上げるために、あえて印刷した紙の

調査用紙による調査を行った。効率性や集計作業のやりやすさ等を考えれば、金沢大学の学習管理システムを使った調査をする方が良いし、これまでもそのような調査をいくつも行っている。しかし、今回は、パソコンの利用時間を聞くようなアンケートであり、それについて、パソコンを使って調査したのでは、そもそも0時間というデータをとることができないと考えたためである。

## 2 調査概要

調査表項目は全32問、全8ページの冊子型の調査表となった。今回の調査が入学時に購入させたノートパソコンに関して、卒業生に対して初めて行った調査だったので、質問項目が多くなっている。

表1 有効回答数と回答率

	有効回答数	回答率 <sup>*1</sup>
全学	501 (534)	33.76%
人間社会学域	116	17.87%
理工学域	362	61.36%
医薬保健学域	23 (33)	9.39%

※1 回答率は、過年度生を含まない2011年度卒業生数を母数として計算した。

表1は、有効回答数と回答率である。所属によってばらつきがあるため、全学のデータとしては偏りが出てしまっている。しかし傾向調査としては使用できると考える。また、卒業はしないが、薬学類からも回答があり（薬学類は6年生をとっている）。表1における括弧内の数字がそれにあたる。医薬保健学域からの回答数が少ないこともあり、以下の調査結果では、医薬保健学域のデータ

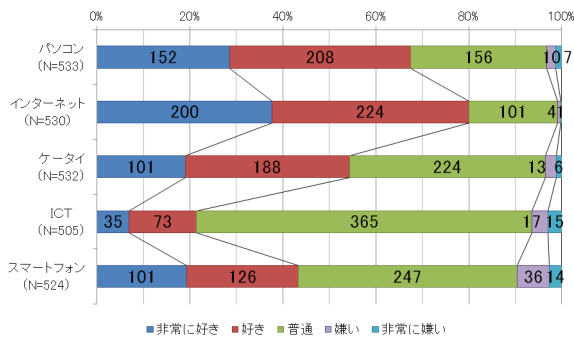


図 1 パソコン等に対する好悪感情 (全学)

には、薬学類も含めた N=56 で評価することとした。従って、全学のデータ数の合計も最大 N=534 となる。

### 3 調査結果

調査は、大きく分けて (1) 基本情報 (2) 購入させたノートパソコンに関すること (3) 本学情報教育に関すること (4) スマートフォンに関すること (5) アカサポータルサイトの利活用に関すること (6) C-SIREN に関することの 6 項目からなる。なお、アカサポータルとは、本学構成員 (学生、教員、事務職員等) 向けのポータルサイトで、本学における多くの ICT サービスに対して一元的にアクセスできるシステムである<sup>2)</sup>。

(6) の C-SIREN とは、運用の効率化のためアカサポータル内の一機能として作製した、メールを用いた緊急時連絡システムで、インフルエンザ等の伝染性疾患の爆発的感染等がおきた時に

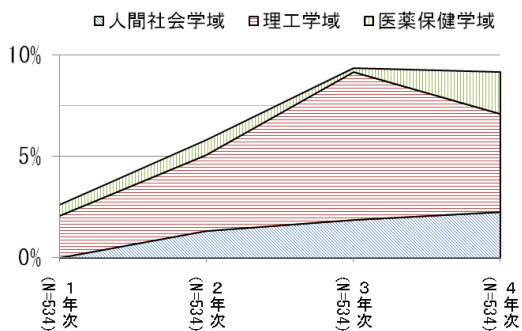


図 2 故障し、修理をした学生の割合

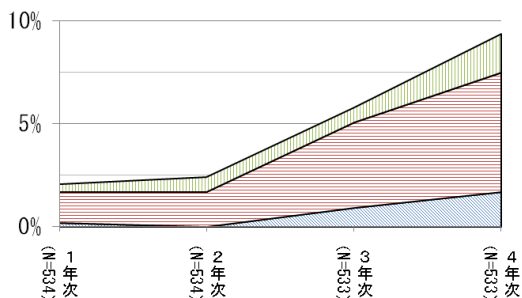


図 3 故障し、修理をしなかった学生の割合

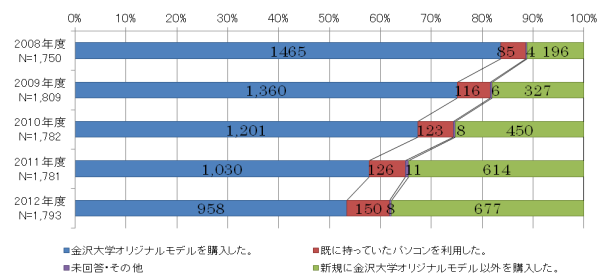


図 4 【参考】金沢大学オリジナルモデル購入者数 (各年度の新生入学生への調査結果)

学生等へ連絡をし、返信をもらうためのシステムであるが、本稿においては、蛇足的な要素となるので、その結果については割愛する。

(1) 基本情報では、所属とパソコン等に対する単純な好悪について聞いた。好悪感情を聞いたのは、それが他の回答に対して影響があるかどうか、その相関を知るためで、図 1 がその結果である。全般的に好意方向に偏っていることがわかるが、ICT のように漠然とした問に対しては普通という回答を返しています。

(2) 購入させたノートパソコンに関することでは、パソコンの故障状況やパソコンの利用時間や自宅での利用頻度等について聞いた。図 2、図 3 は、購入したノートパソコンが故障したかを聞いたもので、3 年生、4 年生になると 2 割近い学生のパソコンが故障していることになる。のべの割合で見ると約半数の学生が故障を起こしていることができる。

本学においては、新入学生にノートパソコンを購入してもらう際に、生協に金沢大学オリジナルモデルと銘をうち (2011 年度卒業生の入学時には、金沢大学推奨モデルと銘を打っていた)、その参考・サポートをしている (必ずしもオリジナルモデルを買わなくても良い)。ノートパソコン必携化の取組が始まった頃には、ノートパソコンの購入はまだ一般的なものではなく、どのような機種を購入すべきかを迷うこともあり、設定したものはあるが、図 4 にあるように、年々新入生の購入者が減っている。これはノートパソコン等を始めとする携帯型の ICT 端末の普及がこの 5 年程度で非常に広まったという社会的背景が大きく影響しているのだろう。しかしオリジナルモデルには、生協が動産保険をつけており、故障等に対して 4 年間の保証をしている。その分、価格が高くなっているが、図 2、図 3 の結果を踏まえると、その必要性は高いと言えるのではないだろうか。

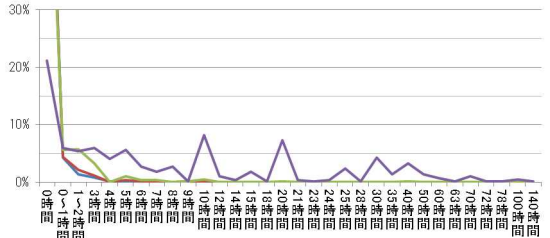
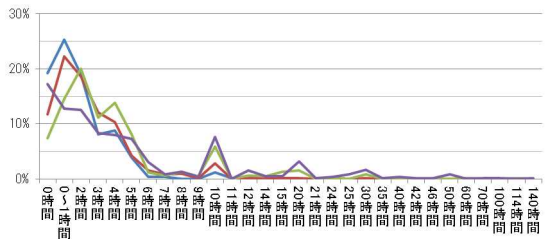
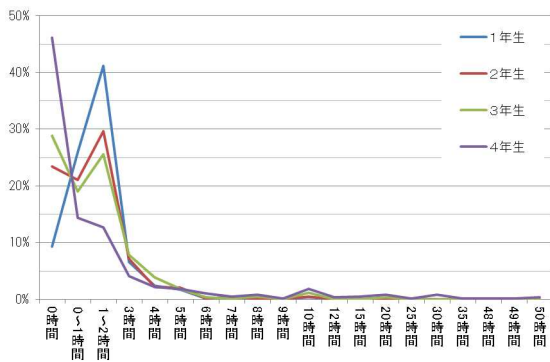


図 5 利用方法別、1週間あたりのパソコンの利用時間（全学のみ）

図 5 はパソコンを1週間辺りどれだけ使用しているかをしめたものである。上から「授業での利用」「課題作成での利用」「研究活動での利用」である。この結果から、学年による活用方法の変化が見て取れる。また、授業での利用については、パソコンを使用する授業自体が少ないということも示しているのだろう。

図 6 は、自宅でパソコンを扱う頻度で、学年が上がるにつれてパソコンを扱う頻度が増えていることが分かる。なお、この結果についてパソコンに関する好悪感情との相関（ピアソンの積率相関）

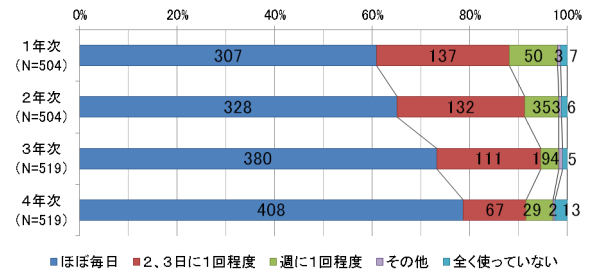


図 6 自宅でパソコンを利用したおよその頻度（全学）

を見ると、4年生の時にパソコンを扱う頻度の結果から低い正の相関が認められた ( $r = .210, p < .001$ )。これはパソコンの使用頻度は、パソコンが好きかどうかよりも、その生活の中でパソコンを使用しなくてはいけない場面が出てくるかどうかという、ある意味当たり前の結果が示されたといえる。同じように、図 7 は、金沢大学のキャンパス内でパソコン等を利用した際に、インターネットに最も良く接続していた場所について聞いたもので、1年から3年までは主に教室で、4年生になると研究室で接続していることが示された。これによって学生の主な行動場所の変化を見て取ることができた。

(3) 本学情報教育に関することでは、在学中に情報技術等をどのように学んだかからはじめて、情報技術を教える側であったかどうか (図 8)、金沢大学では情報教育は充実していたかどうか、パソコンを使えるようになったかどうかについて聞いた。情報技術の学びは、1, 2年生の時に授業で学ぶもの、研究室等に配属されてから必要な技術を教えてもらうもの、学びたいことを独学で学ぶものの、大きく3つに分かれた。図 8 からは、学生の約 3 割が教えてもらう側にいたことが分かり、パソコンに対する好悪感情毎の分布を見てみるとパソコンが好きな学生ほど、教えることが多いことが見て取れる。なお、本学の情報教育そのもの

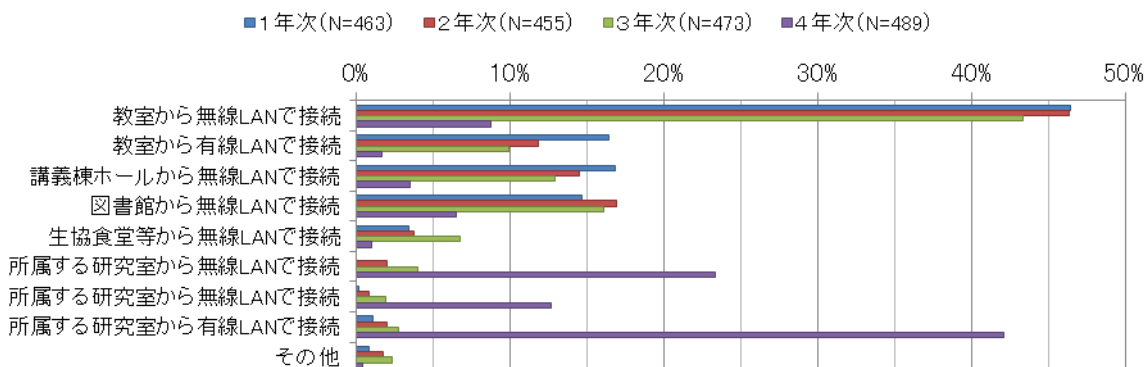


図 7 大学キャンパス内で、インターネットに最も良く接続していた場所（全学）

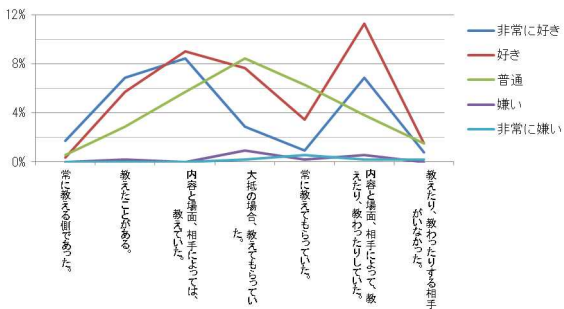
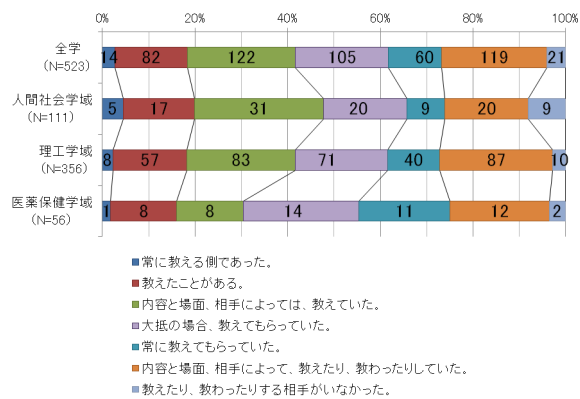


図 8 パソコンの使い方や情報に関する知識等について、学ぶだけでなく、誰かに教えることがあったか (全学)

に対しては、過不足はなかったという意見が大勢を占めていた。そして、在学期間中にパソコンを使えるようになったと思うかと聞くと、図 9 のような結果が見て取れた。最終的には、「パソコンが使えないことは無い」と考えて卒業しているようではあるが、もっとパソコンが使えると思うようになって卒業してもらうための体制は整える必要がありそうである。ちなみにパソコンの好悪感情との間には低い正の相関が認められた ( $r = .382$ ,  $p < .001$ )。

(4) スマートフォンに関することでは、スマートフォンの所持や持って便利になったかを聞いた。この項目は、昨今のスマートフォンのような携帯型端末が、ポータルサイトによる情報発信や、

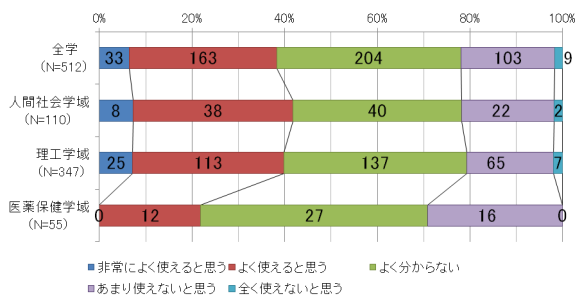


図 9 パソコンを使えるようになったとおもうか (卒業時点)

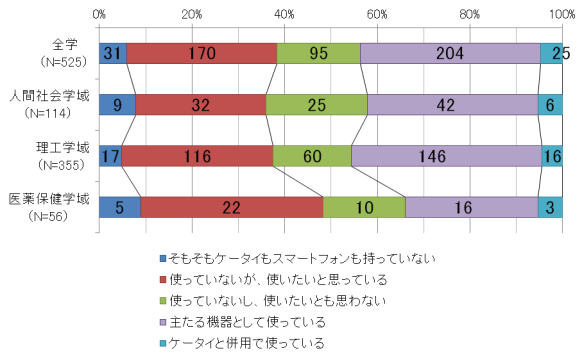


図 10 卒業生のスマートフォン所持率

情報教育の実施等にどれ程影響を与えていくかの予備的な調査である。図 10 から卒業生のスマートフォン所持率は 43.62%であることが分かる。これは本学 2012 年度新入学生の所持率 56.55%より少ないようだが、それでも多くの学生がスマートフォンを所持していることは確かである。現在のところ、スマートフォン自体は、ノートパソコン等の代替になる程の能力・機能を持っていないが、その動向は注意深く見守る必要があるだろう。また、スマートフォンを使用している感想についても聞いてみると、スマートフォンを使用している学生 229 名の 73.8%が「良い」「非常に良い」と答えており、ケータイとの比較でも、71.18%が「ケータイよりも良い」と答えている。学生にとって

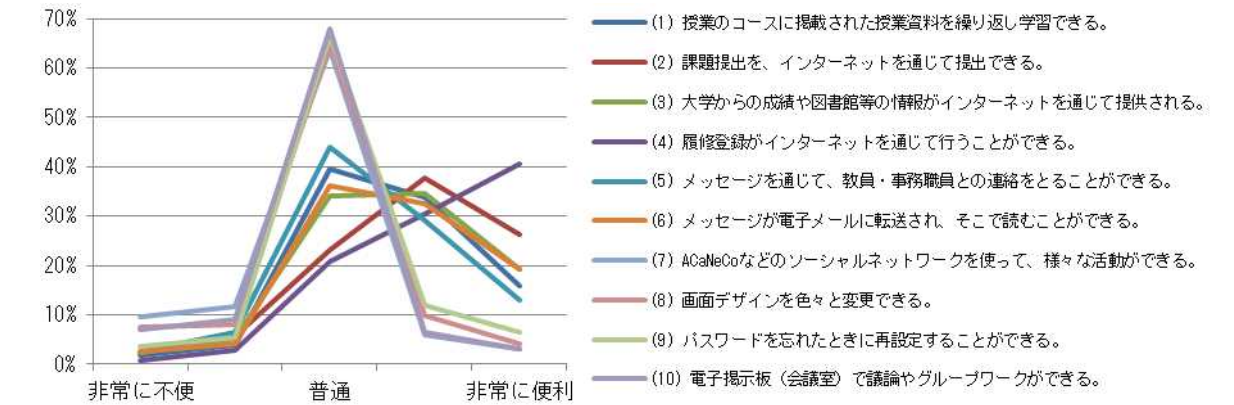


図 11 アカサスポータルの機能別の利便性 (全学)

もその使い勝手は良いものなのだろう。

(5) アカサスポータルサイトの利活用に関することでは、主なアクセス場所や利用頻度、使いやすさ、機能毎に便利だと感じたか(図11)、要不要な機能はあるか、メッセージをどのように使っているかについて聞いている。主なアクセス場所としては、全回答者中56%が自宅から、39.5%が大学からであった。学生の半数以上が、自宅からのアクセスを主としているという点から、大学からの情報の受け取りや、自宅学習との組み合わせ等に金沢大学のポータルサイトを活用するということが、浸透しつつあるといえるだろう。少なくとも大学のことは大学でしか行わないということではなさそうである。

ポータルサイトの様々な機能についての使いやすさは、6割強が「普通に使えた」を選択し、正規分布を画いており、特に可もなく不可もなくということのようである。機能毎の利便さについては、よく利用する機能については「便利」と回答し、そうで無いものについては「普通」と回答しているようである。これは履修登録のように全学生が使用する機能で、その特徴が顕著に表れていることから分かる。全般的な傾向として、ポータル自体を不便なものとは感じておらず、特に使ってみて「不便」だと大きく感じる機能は存在していないことが見て取れます。要不要な機能については、125件の回答があり、機能としての改善点と共に情報提供の在り方や運用等についての不満(成績表示をキチンとして欲しい、深夜に教員

はメールを出すのをやめて欲しい等)が書かれていた。

#### 4 まとめ

今回の調査によって、入学時に購入させたノートパソコンの利用状況がある程度明らかになった。その結果、そもそも学生はパソコンに大きな嫌悪感を持っているわけではなく、その利用に当たっては、好悪感情とは離れて利用されていることが分かった。つまり、学生は、学生生活においてICTの活用が必要であると考え、それを使うことを素直に受け入れていることだろう。

実際に、学生が大学で学習/研究活動を行う以上、このようなことは当然のことであり、教員や学生系の事務職員にとっては、感覚として分かっていることではあるが、改めてデータとして示されたのは面白い点であろう。

#### 参考文献

- [1] 鈴木恒雄, 井町智彦, 笠原禎也, 佐藤正英, 車古正樹, 高田良宏, 松本豊司, 森 祥寛, 堀井祐介: 教材開発とイーラーニングの学内普及へ向けての取り組み, メディア教育研究, 2006, Vol.2 No.2, P.11-17.
- [2] 堀井 祐介, 森 祥寛: 新アカサスポータル紹介, COM.CLUB, 広報 31(1), 6-7, 2008-03